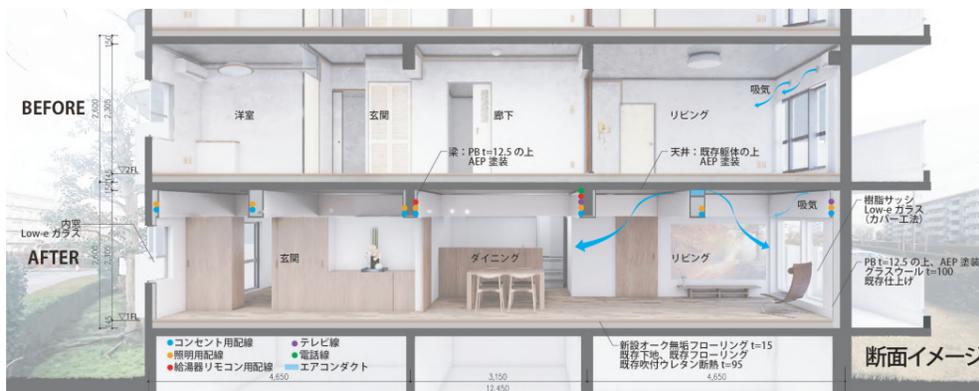


築33年のRC壁式構造の階高圧縮型団地を改修した作品である。部屋を分断する大きな既存梁を模した設備スペースを天井に付加し、動線に干渉することなく自由な配線やダクト計画を実現している。既存梁と設備スペースが空間の連続性とリズムを演出している。

リフォーム前後の写真



After

低い梁が大きな空間の密度を凝縮させ、場所性を強調し、連続反復する梁は、空間の連続性を、住まい全体に印象付けることになる。そして、梁はまるで、建物の構造形式が変化したかのように、建物を象徴する合理的な躯体のように見えてくる。挿入された「設備スペース」は、全体に広がることによって、「建物の骨格」という概念に変わる。間取りを変化させるリノベーションではなく、梁を追加するという、一見過剰に思える、分割の冗長性(Redundancy of Division)によって、新たな骨格を造るリノベーションである。この計画は、階高圧縮型の団地に対する、ひとつの普遍解として成立すると考えている。

Before

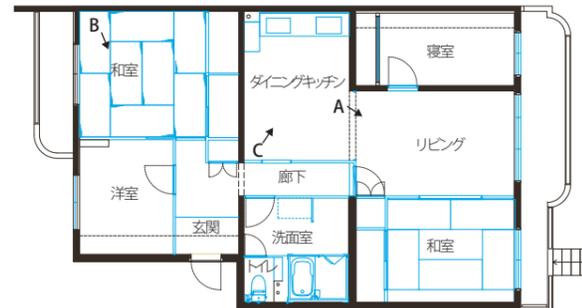
リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想・満足度/住宅の価値を向上させた内容など

<p>改修背景</p> <p>築33年、RC壁式構造の団地は、階高2600mm、天井高2350mmの典型的な階高圧縮型の建物であり、壁式構造ゆえに、大きな梁がLDK等の部屋を分断していた。</p> <p>また、躯体に埋め込まれた配線は、容易に位置を変更できない為、長年の暮らしの変化によって、エアコンの増設・IHの導入・給湯器の更新・テレビの位置変更等に伴い、多くの配線が室内に露出せざるを得ない状況にあった。</p>	<p>設計意図</p> <p>部屋を分断する梁下1850mm、梁背450mmの既存の梁の存在感をカモフラージュするように、既存の躯体に沿わせて、梁に模した設備スペースを住まい全体に廻らせた。</p> <p>これにより、自由な配線・ダクト計画が可能になりながらも、梁は人の動線に干渉しない為、施主の要望に合わせた自由なプラン構想が可能となった。</p>
--	--

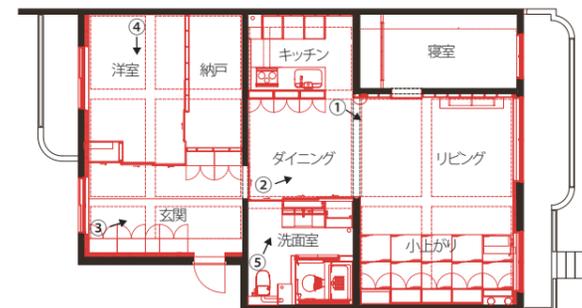
<p>性能向上の特性</p> <p>耐震性能、耐久性能、バリアフリー性能、防音・遮音性能、温熱性能、室内空気環境</p>	<p>特に配慮した事項</p> <p>すべての扉を引き戸に変更、Low-Eペアガラスの採用、外部に面する壁の断熱補強</p>
---	---

データ					
所在地	埼玉県三郷市	新築竣工年	1990年	築後年数	30年
該当工事床面積	98.39㎡	総工事床面積	98.39㎡	該当部分工事費	1000万円
居住者構成	65歳以上:0人 / 15~64歳:1人 / 15歳未満:0人 /				
施工期間	60日間				
総工事費	1000万円				

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ □カクテル/ □ラウンジ共用部分/ □その他